

【ふりかえり会議対象事業名】 ひまわりの仲間たちとの合同事業  
 【事業担当セクション名】 四日市北高等学校  
 【ふりかえり会議実施日時】 2005/3/15(火)13:30~15:30  
 【ふりかえり会議実施場所】 四日市北高等学校

記入者名	日比一海	関本蘭子
所属	四日市北高等学校	ひまわりの仲間たち
<b>中間期</b>		
<b>I 協働の前提</b>		
1. 地域の将来像と事業とのマッチング	?	はい
<ビジョン>	地域の協力を得ながら、現実かつ郷土に親しむ場をつくる。地域と学校が互いの学習・生活・活動の場に積極的に参画する。	四日市北高等学校との協業事業は今後も継続予定。
2. 協働の形態	はい	はい
<現在の協働の形態>	協力	青少年の居場所作り事業へ四日市北高等学校の生徒が参
3. 対等な関係	はい	はい
3-①役割と責任		
3-②コミュニケーションと合意形成	はい	はい
3-③意思決定と指示系統	?	はい
I 協働の前提で「はい」と答えた数	3	5
<b>II 事業</b>		
1. 事業の目的	はい	はい
<事業の目的>	大学・地域・企業が主催する地域解決に向けた調査・研究・討論の場に生徒と教員が参加し、地域社会の一員としての自覚を養う。	子どもたちが自主的に集まることができるような「青少年居場所作り事業」に取り組み、主体的・自主的に運営・企画・活動していけるような事業を行う。
2. 事業の成果	はい	はい
<事業の成果目標>	NPO法人ひまわりの仲間たちとの協業をすることで、勢と一人一人が地域社会の1人としての自覚を養うことができる。	青少年の居場所作りに参加している児童・生徒が中心となり、青少年の居場所作りを自主的に運営していく。
3. 成果の帰属	いいえ	いいえ
<具体的成果(物)>	未記入	未記入
<帰属>	未記入	未記入
4. 事業の完了時期	?	はい
5. 事業後の展望	?	はい
<事業後の展望・方向性>	未記入	高等学校、地域市民、他のNPO団体と協業した「青少年の居場所作り事業」は、今後も継続していく方向で検討してい
II 事業で「はい」と答えた数	2	4
<b>III 事業実施体制</b>		
1. 業務分担	はい	はい
2. 費用分担	はい	いいえ
3. 情報共有	はい	はい
4. 問題発生時の体制	はい	はい
5. スケジュール管理と進捗確認	はい	はい
III 事業実施体制で「はい」と答えた数	5	4

記入者名	日比一海	関本蘭子
所属	四日市北高等学校	ひまわりの仲間たち
中間期で「はい」と答えた数の合計	10	13

完了期		
I 事業の結果		
1. 問題発生時の体制	はい	はい
2. クレームの吸い上げとフィードバック	はい	はい
3. 事業実施後の振り返り	はい	はい
<結果>	今後の授業計画に活かすことができた。	多くの子どもたちが参加できるような環境をつくることが出来ました。
4. 成果の達成	はい	はい
<成果>	目標の受講者を集めることができた。	「青少年の居場所づくり事業」に多くの子どもたちが参加できた。
5. 事業の将来展望	?	?
<課題解決のための改善提案>	未記入	未記入
I 事業の結果で「はい」と答えた数	3	4
II 事業の成果		
1. 事業後の受益者とのコミュニケーションと満足度	はい	いいえ
<受益者の満足の声>	全くの素人だった人が、楽しいと最後まで出席するような分かりやすい講義で、非常に満足しております。また、機会をつくってレベルアップの講座をお願いしたい。	未記入
2. 事業後の資源提供者とのコミュニケーションと満足度	いいえ	いいえ
<資源提供者の満足の声>	特記事項なし	未記入
3. 人々の自立性の向上	はい	はい
4. 新たなネットワーク	はい	はい
5. 地域や社会に与えたインパクト	?	はい
<事業が地域や社会に与えた影響>	IT講習会サテライト教室や授業フィールドワークを通じて、市民の方々と本校生徒との交流会の場をつくることができた。	高等学校とNPO法人が協業するという事例はユニークで、マスコミ等も取り上げた。
II 事業の成果で「はい」と答えた数	3	3
III 実施の結果		
1. 協働意識の醸成	はい	はい
2. 協働の満足度	はい	はい
3. 協働のコストの分担	?	?
<生じた負担感>	未記入	未記入
4. 今後の協働の改善	はい	はい
<改善ポイント>	高校生、一般の方々が参加しやすいような環境作り（特に場所、時間）	高等学校とNPO団体の協業だけに留まらず、市や行政なども多角的に協業事業に参加して欲しい。
5. 結果の公開と説明責任	はい	はい
III 実施の結果で「はい」と答えた数	4	4
完了期で「はい」と答えた数の合計	10	11

夢を実現させたい！仲間づくりができる！

# 子どもと若者の居場所

四日市市中央緑地公園入り口の  
勤労青少年ホーム「きんせい」が居場所になった！  
＜毎週土・日 10：00～19：00 オープン＞

おいでよ！

仲間づくり

遊びにおいて！

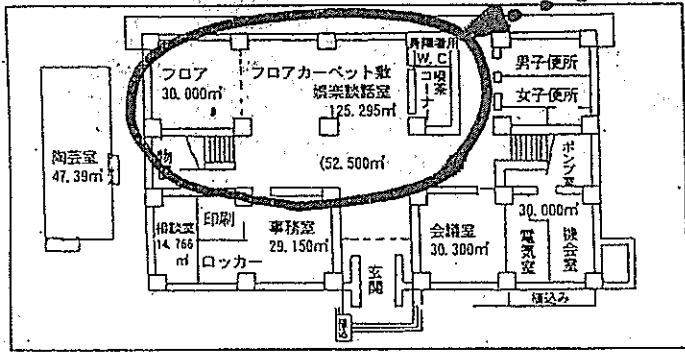
問い合わせ先

四日市市教育委員会少年センター 0593-54-8314

受託運営団体 NPO 法人 ひまわりの仲間たち

電話 0593-50-1660 FAX 0593-50-1661


子どもと若者の居場所専用電話 090-5037-5222

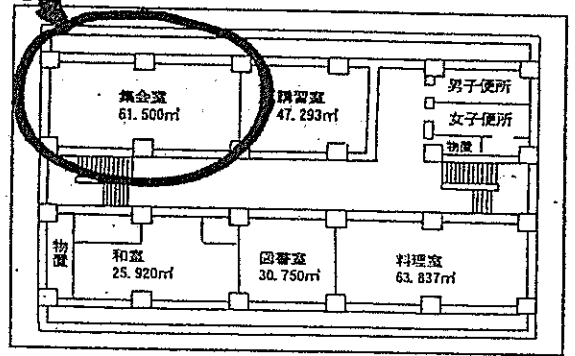


1階

1フロアには図書もあり、談話室にはマンガコーナーもあります。座りごころのソファやテーブルに座って読書したり。集まり来た人同士でおしゃべりしたり...  
 喫茶コーナーも使えます!

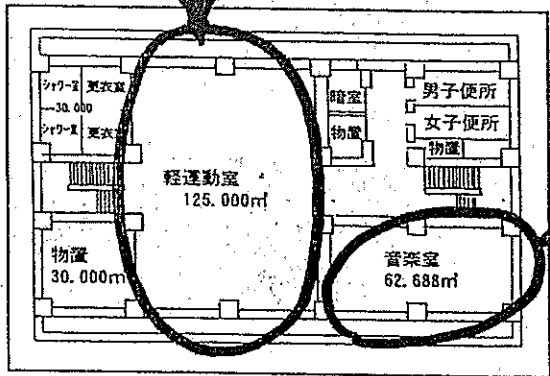


ここには机と椅子が並んでいます。静かに勉強したいときや、勉強したいとき...  




2階

ここには体を動かそう! 大きな鏡が付いている部屋です。ダンス、エアロビクスなどはいかが? 卓球もできます!!





3階

バンドの練習のK!! 思い切り練習できます! (使用人数は、事前予約して下さいね)

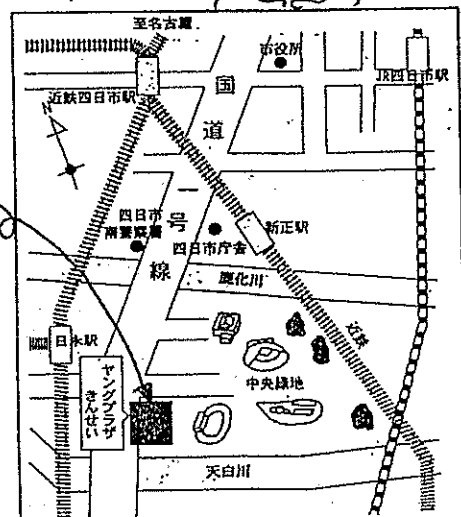


ま、こころ

! そろそろコート、あるよ!  
 学校のとき、勉強のとき、  
 親のとき、友だちのとき  
 いろいろ...  


さっ!  
 君は、どう使う!!  


ココです



## 2-2. 商店街の中の居場所

平成14年6月から団体事務所を商店街の空店舗に移転、店舗の広さを利用し、買い物に来るお母さん方のふらっと寄れる居場所として、趣味の作品の展示を始めた。

同時に、学校(四日市大学、四日市北高校)と商店街との三者で、「旧東海道筋商店街活性化プロジェクト」を組み、商店街の活性化に取組み、平成15年3月には「ええやんか東海道」と名付けたお祭りを行った。

その時のチラシ(資料-8)と新聞(資料-9)を添付

これらの事業から、学生さん達とのつながりもでき、日常のコミュニケーションの中から、気軽に寄れる居場所づくりが芽生えてきた。

## 3. 居場所事業の実施

### 3-1. 具体的な取組み

6月中旬の事業委託決定後、四日市市少年センターや青少年育成市民会議を訪問、また居場所を利用してくれそうな学校、青少年と利用条件など下打ち合わせを行い、学校の夏休み直前になったが「募集要項」(資料-10添付)を作成し、下記にアプローチした。

学校に対しては

四日市大学

四日市北高校

四日市商業高校

四日市工業高校

青少年直接には

四日市南高校

メリノール高校

### 3-2. 実際の居場所のスタート

アプローチの結果、何か以下の往来はあったが、結果的には四日市北高校と四日市商業高校の2校が来てくれることになった。

#### ・運営形態

当初我々の目標は、「青少年の自主的な企画・運営」による運営であったが、学校側の意向で、先生からの課題を「居場所」(商店街に関する)に持ってきて、商店街の中の店を利用して、課題の勉強・解決をする、という方法になった。

したがって、団体メンバーは常時駐在し、相談相手になったが、先生がいるため青少年による運営委員会等は設置しなかった。

・利用者は

四日市北高校が2グループ

Aグループ…男性5人、女性7人

Bグループ…男性2人、女性6人

四日市商業高校

1グループのみで男性1名、女性5人

・居場所での活動

四日市北高校…\*ビジネス基礎の体験学習

商店街にある商店について研究する。

調査中の新聞(資料—11添付)

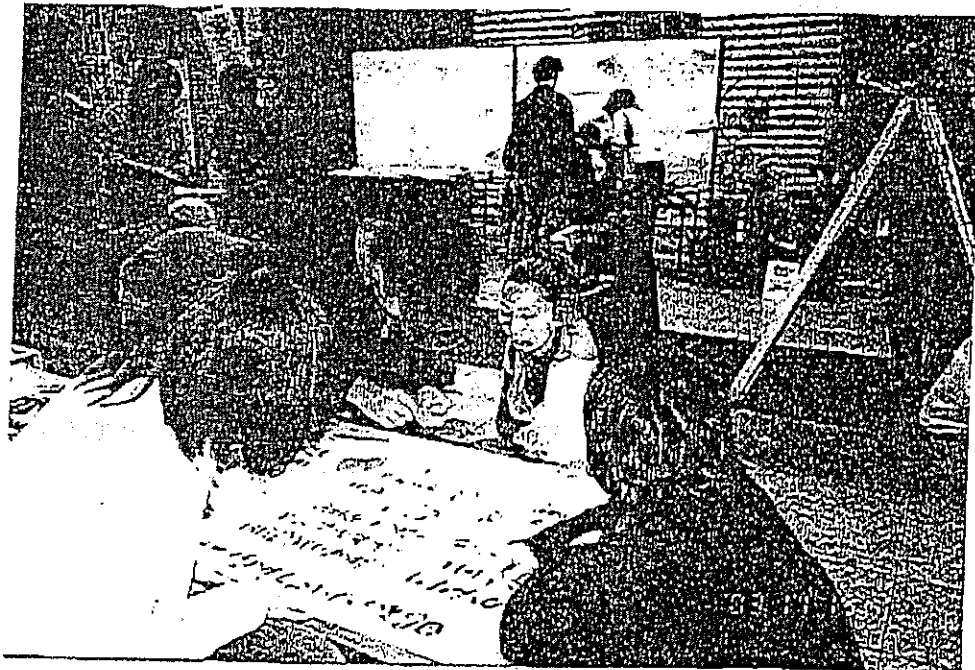
商店街が主催するイベントに参加する。

11月6日には、昔の遊びの伝承(新聞、資料—12添付)

11月15日・16日のイベント「昭和レトロ物語」に参加し、

遊びに来た子どもたちに昔の遊びを教えた。

「昭和レトロ物語」のお祭りテラシ…(資料—13添付)



\*POPデザインの校外演習

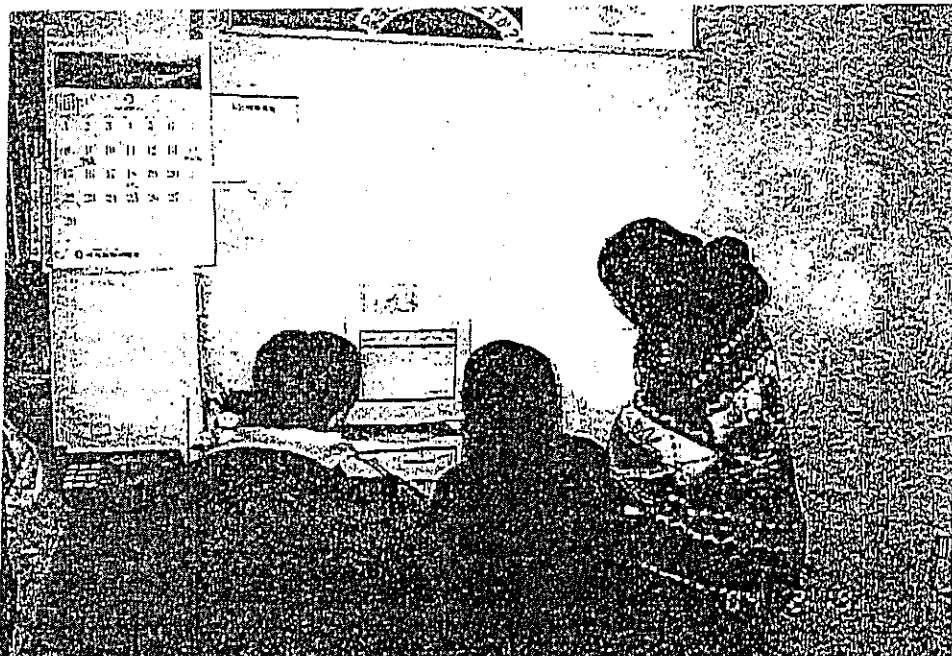
学生作成のチラシ (資料-14、15 添付)

\*居場所を利用したIT講習会

IT講習会のチラシ (資料-16 添付)

\*ホームページづくり (製作中のHPの表紙のみ添付、資料-17)

\*「ひまわりの仲間だより」の「若者の言い分」記事を担当



四日市商業高校…\*商標の意識調査と登録そのものの実体験

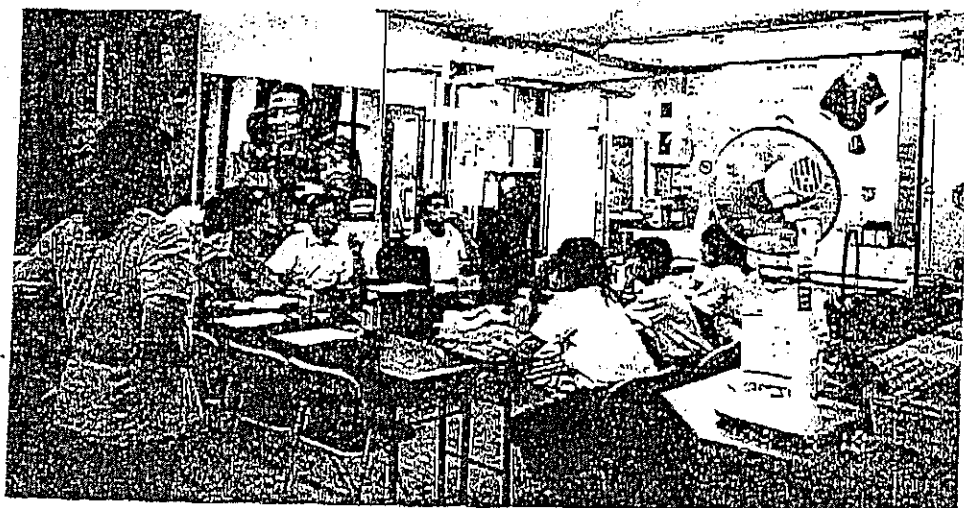
調査の新聞記事 (資料-18) 添付

6人がまとめた報告書 (表紙のみ、資料-19) 添付

「知的財産権をまなぶ、特許・商標を取るための実務」

当団体の登録商標 (資料-20 添付)

報告会の新聞記事 (資料-21 添付)





## 4. 居場所利用の高校生の感想

あなたの居場所はどこか？ 居場所は必要か？

どんな場所なら自分らしくしていただけるか？などの質問に対し

Aさん…自分にとって居心地のよい場所は「自分の部屋」

音楽が聴けて、本も読める場所。

この居場所でも学校でも授業はどっちでもいい。

Bさん…本が読めて音楽が聴けて、何も考えず「ボ～」とできるところ。

桑名市民なので、居場所が桑名にあればそっちに行く。

Cさん…本屋テレビや気の置けない人がいる場所

そこでボヤーと何もしないで考え事をしたい。

Dさん…お話ししたりボ～としたり、歌聴いたりできる場所

学校の教室のように人数が多くなくて、この居場所は静かがいい。

Eさん…友達がいっぱいいる場所で、ゲームやお喋りができる場所

そこで話がいっぱいできるし、他人の話を聞くだけでもいい。

Fさん…自分の部屋とか友達がいる場所が私の居場所

そこでテレビを見たり、読書やゲームをする。居場所は狭い方が良い(教室は広すぎる)

Gさん…ボヤーとしていられる所がほしい。

Hさん…お風呂の中やフトンの中のように目を閉じて瞑想のできるような所がほしい。

Iさん…本が一杯あって読書できる所がほしい。

Jさん…静かに一人でおられて、ボ～とできる所

遠くて交通に不便な所には行かない。コンビニの前や、駅の階段で座ったりしているのは、人の流れがある・動きがあるからいい。

先生や課題がなければ、こんな所には来たくない。

Kさん…居場所とはその人の周りを探せばあるもの(探さなくてもある)、その人が見つけないだけ。居場所はとてもいいと思う。引っ込み気味の子でも、その場所で多くの仲間を見つけられると思う。

Lさん…友達と夜までいられる場所がほしい。

Mさん…居場所だとかそういうものを意識したことがない。だから私には「青少年の居場所」なんて意味がないけれど、どこかに何かを求めている人がいるのは確か。

だから、応援というかそうした活動には興味がある。商店街とか近い所に気軽に集まれる安らぎの場所があれば、笑顔になれる人もいると思う。

でも、最初は行きにくい…場所云々の問題ではないと思う。

Nさん…家なんかでやることが多く、今そういう場所に行ってる余裕がない。好きな本とか楽器の機材とか、自分の興味のあるものがあれば行くかもしれないけ



ど…

学校帰りに何も四日市までわざわざ出て行くのはどうも…

テスト勉強なんかで集まる時は便利と思う。

○さん…居場所って一体なんでしょう。集まれる場所ができれば、自分が変れるの？

…自分の気持ちの押し方だと思う。

自分の居場所は家にある。みんなが集まる場所に行かなくても、自分の居場所はある。

Pさん…自分自身がそんなに居場所に困ってるわけではないので、必要かと聞かれたら、いらないと答えるかもしれない。けど、本当に困ってる人や悩んでる人には必要と思う。四日市で遊んだ後とかに、休ませてもらったり、待ち合わせの場所にしたり、そう意味での集いの場としてはいいかも。居場所としてでなく、いろんなもの（音楽機材や本）があれば、興味を持って遊びに来る人もいると思う。

## 5. 成果と課題

当初は、同年～異年齢の青少年が気軽に出入りし、自らの企画・運営で自由に意見を言い合えるような居場所づくりを考えていたが、結果的には先生に引率された学生が、与えられた課題を、居場所を利用してこなす、という形でスタートせざるを得なかった。

単なる「場所」だけなら、誰も来てくれないのは1年前からの「お母さんの居場所」の経験からも予想できた。だから何らかのイベントとの抱き合せで…の思いが、先生の課題をする、というのと合致してしまった感がある。

たとえ、先生の課題を持って来て、商店街の中で行うという形になったとしても、学生が何度かここに来ている内に、なれて自分たちだけで来てくれるようになる、その1つのステップ…と言い訳のようになるが、考えた。

事実、最初は硬かった学生さん達の言葉づかいも、日が経過するにつれ柔らかくなり、くだけた会話になってきた。居場所に来た時や終わって帰るときの雑談や、お祭りイベントの時の会話にも、気楽に意見交換できるようになったことは大きな成果と思う。

また、期間終了間際から始まったホームページづくりや、当団体の発行する「ひまわりだより」に、「若者の言い分」のページを作ることになったのは、少しずつではあるが自分たちの居場所に向けて、進み始めた兆候と喜んでいる。

これらを機に、課題をこなす日以外にも、ぶらりと来てくれるようになれば占めたものである。しかし、アンケートにもあるように、若者の要求する居場所にするには、大きな問題山積みである。

平成16年度

# 社会教育方針

四日市市教育委員会

【担当所属：教育委員会 生涯学習課】

任 務	家庭や地域の教育力を高め、地域全体で子どもたちを育む社会の実現に努める。				
平成 16 年度 主要施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育の大切さを考える機会を多くの保護者に提供する。</li> <li>・地域で子どもを安全に育成する。</li> </ul>				
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年講座・家庭教育講座への参加者数</li> <li>・青少年ふれあいイベントボランティア数</li> </ul>	目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11,700 人</li> <li>・ 110 人</li> </ul>	平成 15 年度末 見込値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11,300 人</li> <li>・ 93 人</li> </ul>
				平成 14 年度 実績値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11,238 人</li> <li>・ 98 人</li> </ul>

【主な事業】

1. 家庭教育振興事業

当初予算額： 2, 531 千円

[事業概要]： 青少年期における家庭教育の重要性を啓発するため、家庭教育講演会を開催するとともに、四日市市PTA連絡協議会に家庭教育講座の開催を委託する。また、体験活動案内や家庭教育支援に関する情報誌の発行を子どもセンターに委託する。

2. 青少年ボランティア活動促進事業

当初予算額： 1, 007 千円

[事業概要]： 青少年の豊かな人間性を培うため、ボランティア活動を通じて地域社会づくりに参加し、多くの人と出会い、様々な体験を行うことができる機会を提供する。

3. 学童保育補助事業

当初予算額： 46, 499 千円

[事業概要]： 放課後、就労等で保護者がいない留守家庭児童の健全育成、福祉の向上を図るため、保育事業を実施している団体に対し、その支援を行う。

4. 子どもと若者の居場所づくり事業

当初予算額： 3, 522 千円

[事業概要]： 人と人とのふれあいを求めながら、家庭や学校に居場所のない青少年が、大人も交えた異年齢集団の中で、出会いと体験により大人になるために必要な自主性・社会性・規範意識を身につけるための支援・助言・相談業務を行う。

# 子育て・教育

## 2 確かな学力と豊かな人間性をもった子どもが育つ

### 2-1 子どもが心身ともに健やかに育つ

#### 現状と課題

青少年の非行や問題行動が低年齢化の傾向の中で家庭の養育機能や地域の教育力の低下、子どもたちの人間関係の希薄さが叫ばれ、子育てへの支援や相談体制、地域全体で子どもたちを見守り育てることなどが課題になっている。

青少年が出会いと体験活動ができるよう場の提供を行い、家庭・学校・地域社会との有機的な連携を一層進めるとともに、豊かな心の育成や人間性を高め、自立と連帯意識を育成できる環境づくりに取り組む。

子どもたちの自然体験や体験活動が少なくなっている中、少年自然の家では野外炊事や自然観察・登山・ハイキング・創作活動・里山保全活動などを行い、自然のすばらしさや大切さ、困難な活動をやりとげた成就感・達成感を感じたり、自分や友達の新しい面を発見できる場を提供している。

一方、課題として事業の内容や開催日時に工夫をして参加者の増員を図るほか枯れ松処理と計画的なメンテナンスを必要としてきている。